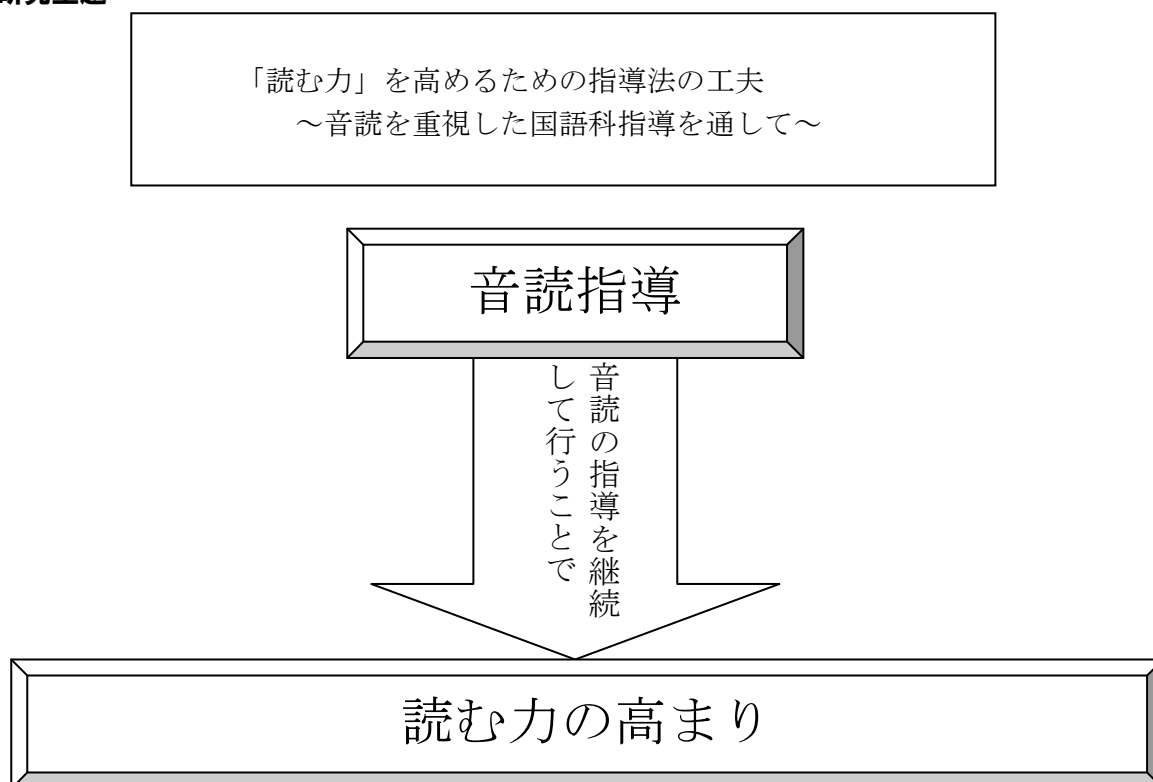


1 研究主題



2 主題設定の理由

国語の力は、すべての学習活動に必要とされるものであり、学力の根幹をなす部分である。国語力の低下は他の教科の理解力低下にもつながり、学力低下が叫ばれている近年の社会情勢とも密接に関係していると思われる。国語力とは、他人の言葉や書かれていることが理解でき、自分の思いを言葉で表現できることと考えられる。この国語力を身につけるために効果的とされているもののひとつに「音読」がある。音読に親しめば、言語に対する感受性が高まり、言語を理解する力がついてくる。何度も音読して、暗唱することで、書かれていること全体を理解するという学習は昔から行われており、その経験から効果が実証された学習法である。脳科学的立場からも「音読が脳を最も活性化させる」という効果が明らかになっている。音読が大きな声で堂々としてできるようになれば、自信を持ち落ち着いて学習に参加することができる。精神的に安定すると、授業中の先生や友達の話もよく聞けるようになり、学習態度や学習規律も高まっていく。音読への自信は、自ら話す力やコミュニケーション能力も高めていく。そのことが、読書力や書く力にもつながる。さらに、音読は、心や頭にいいだけでなく、声を出すことで元気になることで元気になる効果があるとも言われている。そして唾液の分泌を促し肺活量を増大し、健康にも良いという報告がされている。

本校では、昨年度子ども達の体力を伸ばすための日常の体育的活動や環境と食育についての研究に取り組んだ。その結果、進んで体を動かすようになり体力も伸びた。しかし、本年度の研究について考えたとき、「発表の声が小さい」「あいさつの声が小さい」「CRTの点数が全国平均に届いていない学年がある」「読み取りの問題ができない」など、声の小さいことや、学力低下、文章の理解力などについての問題点が上がってきた。

そこで、国語科において音読を積極的に取り入れた学習を日常的に継続していけば、声を出すことに抵抗を感じなくなったり、書かれていることを正確に読み取ることができたりするのではないかと考えた。また多様な音読指導を積み重ねていくことで音読の楽しさを感じ取り、意欲的に音読に取り組むようになり、文章を読み取る力も高まるのではないかと考えた。

また、日常生活で問題になっているあいさつや返事の声も大きくなるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究のねらい（仮説）

- 国語科において音読を積極的に取り入れた学習を日常的に積み重ねるとともに、音読の楽しさを味わう活動を工夫すれば、子ども達は意欲的に音読に取り組み、文章を分かりやすく読むことができるようになり、読む力も高まるであろう。

4 研究の見通し

1年目	2年目
○ 意欲的に分かりやすく音読ができる児童の育成	○ 意欲的に分かりやすく音読でき読む力の高まった児童の育成

5 研究の内容

(1) 基本的な考え方

① 「読む力」とは

- ・ 書かれていることを正確に読み取る力。また、それに対する自分の考えを持つ力。

② 音読の効果について

- 指導要領解説書から
 - ・ 自分が理解しているかどうかを確かめたり深めたりする。
 - ・ 他の児童が理解するのを助ける。
 - ・ 一人一人の理解や感想などが反映できる。
- 文献から
 - ・ 言葉の使い方が分かる。
 - ・ 言葉の持つ、リズムや語感が分かる。
 - ・ 言葉が獲得できる。
 - ・ 漢語の正しい読み方が分かる。
 - ・ 主述の関係が分かる。
 - ・ 優れた文章や文体を、体感できる。
 - ・ 授業に集中できる。
 - ・ 脳が活性化される。
 - ・ 読みの力の向上が、実感できる。
 - ・ 音読を繰り返す内に、文章が覚えられる。

新国語科の重点指導 第6巻「音読・朗読・暗唱の育て方」（明治図書）より

③ 音読の指導

- 読む力につながる音読として次の内容を研修し、実践していく。
 - ・ 多様な音読指導法
 - ・ 音読を取り入れた授業の実践例
 - ・ 音読の効果を生かした単元構成
 - ・ 音読指導の基礎・基本となるもの

④ 身につけさせるもの

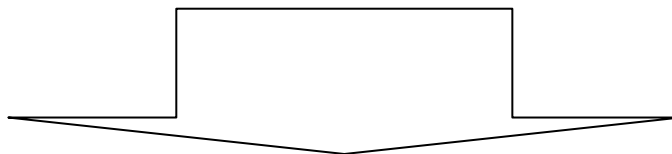
- ・ 分かりやすく音読できる力
- ・ 音読への興味

(2) 研究組織と活動内容

研究推進委員会
○ 研修の企画立案と検討



全体会	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 音読に関する児童の実態把握と教師の願いの確認 ○ 研究の基本的な考え方の検討及び共通理解 ○ 学力テストの実態把握と結果分析 ○ 指導案の形式 	
授業研究班	環境班
<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な音読の方法 ○ 音読の効果を生かした単元指導計画・指導過程の工夫 ○ 音読の評価基準 ○ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音読の基礎・基本となるもの ○ 音読の意欲を高める工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音読コーナー ○ 音読の意識調査と変容 ○



低学年部会	中学年部会	高学年部会
<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の選定 ・ 指導案の検討 ・ 音読を取り入れた授業実践 ・ 研究授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の選定 ・ 指導案の検討 ・ 音読を取り入れた授業実践 ・ 研究授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の選定 ・ 指導案の検討 ・ 音読を取り入れた授業実践 ・ 研究授業

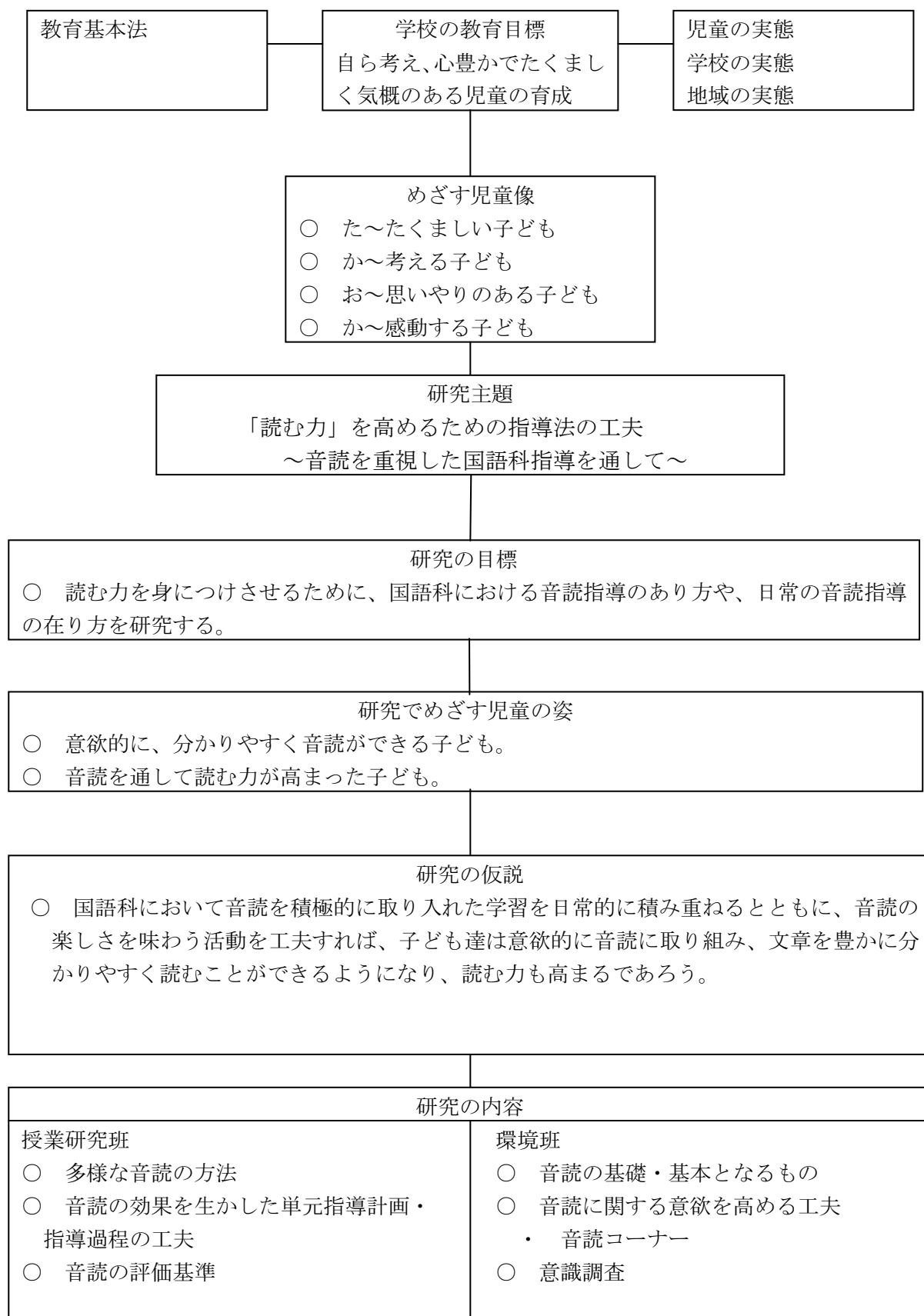
(3) 班の構成

	授業研究班		環境班	
1年	2		1	
2年	1		2	
3年	1		2	
4年	2		1	
5年	1		1	
6年	2		1	
合計(人)	9		8	

(4) 検証計画

	授業構想班	環境班
身につけたい力	分かりやすく音読する力	意欲的に音読する力
検証の観点	国語科の授業のどの場面でどのような音読を取り入れていくかを考えることが、児童の読む力を高める上で有効であったか。	音読の基本となる姿勢を指導することや、発表の場を設定することが音読への意欲を高めることにつながったか。
検証場面	<ul style="list-style-type: none"> ○ 導入・展開・終末の音読 ○ 単元テスト ○ CRTテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業以外の音読の時間(音読コーナーなど) ○ 音読発表への取組(学年集会など)
検証方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価基準をつかった友達や教師による評価 ○ 「読むこと」に関する単元テストの年間の変容 ○ CRTテスト「読むこと」の昨年との比較 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価(意識調査)の変容 ○ 保護者からの評価の変容

6 研究の全体構想図



※ 次回 職員研修 5月19日 研究授業の形態について

※ 学習指導要領「C 読むこと」の指導事項

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
音読に関する指導事項	ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。	ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。
効果的な読み方に関する指導事項			イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。
説明的な文章の解釈に関する指導事項	イ 時間的な順序や事柄などの順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。	ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたんに読むこと。
文学的な文章の解釈に関する指導事項	ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。	エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。
自分の考えの形成及び交流に関する指導事項	エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。	エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。
目的に応じた読書に関する指導事項	カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。	カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。	カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。